

2018年度 北白川教会親睦修養会のご案内

2018年も、はや半年が過ぎ、梅雨の最中、7月に入りました。6月に清水麗子さんを天にお送りし、7月には川平つるさんを、一人また一人と天の名簿に書き加えられていき、天上のにぎわいに比べ、高齢者の方々の多い北白川教会にあって、地上の寂しさがますますつのるものです。しかし、信仰によって、終わりの日、先に帰りゆかれた先生方、先達たちと手と手を取り合い、顔と顔を見合わせ、天のご褒美をいただく約束に望みを置き、私たちも、召されるその日まで、与えられたこの北白川教会に繋がりつつ、懸命に主に喜ばれる小さな良き働きをなしていきたいと願っています。

今年4月から礼拝ではイザヤ書を佐伯先生の講解によって学ぶことを許されています。弱小国である南ユダ王国は、強大国アッシリア、エジプトからの攻撃、シリア・エフライム戦争など、国家存亡の危機の中にあって、「王の心も民の心も、森の木々が風に揺れ動くように動揺し」、主を捨て、聖なる方を侮り、背を向け、あっちの大国にこっちの大国に従属し、同盟を結び生き延びようとししました。その時代にイザヤは預言者として召命を受け、「落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない。心を弱くしてはならない。…信じなければ、あなたがたは確かにされない」と語りかけました。あたかも、今まさにこの世界にイザヤが現われ、今日の様々な危機（政治の貧困、格差社会、戦争、大災害、放射能汚染等々）とその背後の闇の深さ、私たちの有様を見て、神様の言葉を預かり語りかけている気が強くなりました。

これまで親睦修養会では、2011年より、東日本大震災、熊本・大分地震、福島の放射能の不安と恐れがもたらす苦しみの中で、人と人とのつながりを築き、寄り添いながら支援に取り組んでおられる方々をお招きし、お話を伺ってきました。今年は、栃木県那須塩原のアジア学院校長、荒川朋子先生をお招きいたします。アジア学院も、東日本大震災、福島の原発事故によって土台からゆり動かされ、学院の存亡の危機に遭いながらも、しかしそのことを通して、学院のモットーである「共に生きるために」を生き祈るキリストの平和の道を、世界の農村指導者たちとともに目指し、歩んでこられました。本年の親睦修養会が、真の平和・平安に心を寄せる交わりの時となるよう、祈りをもってご参加ください。

講師紹介

荒川朋子先生は、アジア学院（アジア農村指導者養成専門学校）校長です。1967年生まれ、群馬県高崎市出身。国際基督教大学、米国ミシガン州立大学大学院（農村社会学修士）修了。1995年よりアジア学院職員。アジア学院は、1973年に栃木県那須塩原市に高見敏弘牧師を中心とする有志によって創設された、有機農業による自給自足を基盤に、世界中の農村指導者を養成する学院である。6haの小高い丘に広がるキャンパスに、毎年約30名の農村指導者たちがアジア、アフリカ、太平洋諸島等の農村地域から集まり、共同生活を送りながら、社会的に厳しい生活を強いられている人々に奉仕する「仕える指導者」として成長するため、9か月間の研修に臨む。実践に基づくカリキュラムは、持続可能な農業による食糧生産と食糧自給に重点を置き、地域資源を活用することによって共同体の自立強化を促す。卒業生は世界50ヶ国以上に1,300人を超え、それぞれの農村地域で「共に生きるために」というモットーに則して、より公平で平和な社会を築くために働いている。また2011年の原発事故をきっかけに、地域の住民とともに、放射能測定と勉強会も開始、アジア学院バクレルセンターを開設し、学院産の農産物、土や水などの測定を行い、地域の放射能被害の実態調査も継続している。

（アジア学院発行物：「農村指導者たち」「アジアの土」「共に生きるために」より）

～ 親睦修養会プログラム ～

日時： 9月24日（月・秋分の日）

*10:30～11:00 開会礼拝 説教：佐伯 勲

*11:00～12:30 お話し「世界の農村指導者たちと共に生きる」 荒川朋子先生
…質疑応答…

*12:30～14:30 グループ別に昼食及び交わりのひととき

*14:30～15:30 教会員の方からのお話 佐伯法子、松原千里、竹下晃朗^{あきひろ}

*15:30～16:00 閉会祈祷会

参加費： 大人 1300円（学生は半額）

申し込み： 準備の都合上、9月16日（日）までに教会内の申込書にご記入下さい。

会場： 京大YMCA会館（地図参照）問い合わせは 080-1523-0431（佐伯携帯）